

木材チップの換算係数

一般に統計処理等に用いられる換算件数は、針葉樹:2.2、広葉樹:1.7を採用。
市場における取引に用いられる換算係数は、産地、樹種及び季節等により相違。
近年、重量値による取引が一般化しているが、絶乾重量の算出には係数が必要。

【針葉樹チップ】

材 積 (丸太換算) (m^3)	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) (m^3)	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	0.8	3.0	0.5	0.2
1.3	1.0	2.4	0.4	0.2
0.3	0.2	1.0	0.1	0.1
2.2	1.8	6.6	1.0	0.5
4.8	3.8	14.4	2.2	1.0

【広葉樹チップ】

材 積 (丸太換算) (m^3)	チップ用原木 生重量 (トン)	容積 (見掛容量) (m^3)	絶乾重量 (BDt)	パルプ収量 (トン)
1.0	1.3	3.0	0.6	0.3
0.8	1.0	2.4	0.5	0.2
0.3	0.4	1.0	0.2	0.1
1.7	2.1	5.1	1.0	0.5
3.7	4.6	11.1	2.2	1.0

- (注) 1 実際の取引に用いられる換算率は、地域、樹種、部位、品質等によって異なる。
2 見掛け容量は、トラックへの積み込み時の状況及び時間経過により異なる。
3 チップ用生重量は、樹種毎又は含水率によって異なる。
4 樹種毎の容積重(絶乾密度:BDt/ m^3)から材積(丸太換算: m^3)を導く場合は、絶乾重量の黒太枠(1.0と表記)の欄に容積重を置き換え、換算率を乗じて算出。
(ただし、気乾密度(約15%の水分を含む状態:Adt/ m^3)から算出する場合は、気乾密度に100/115を乗じて絶乾容積重(BDt/ m^3)を算定)

(出典) 丸太―絶乾重量換算値:林野庁「木材需給表」

見掛容積―丸太容積:全国本村チップ工業連合会編「木材チップ」(1987)

(各樹種の平均値を算定)

絶乾重量―パルプ収量:森林総合研究所監修「本材工業ハンドブック」(スギ、クリ他)

丸太―チップ用原木生重量:林野庁業務資料(業界聞き取り等の結果*)